

チベット文 世間施設論の和譯

春日井 真也

印度語

Loka-prajñapti

西藏語

Asfig-nten Asthag-pa

卷 第一

世尊釈迦牟尼に帰命し奉る。

(I)

ニハニ

steri nmons dari ni rol mtshe dari ||
nam son gsum dari glir dari gin ||

agah kshal dari ni mkha k lalin dari ||
 ngal chen groi dari fidus aa namas ||

是の如く我は商けり。一時世尊は金衛城・舊多林、伶孤独園に在きせり。世尊は比丘等に説いて曰く。比丘等よ、世界に三種あり、何をか三と云ふや。謂く、小千世界、中二千世界、三千大千世界なり。

何をか小千世界と云ふや。謂く、三千世界に於て日輪の光明遍ぬくめぐりて四方を照す所に於て、千の月輪、千の日輪、千の須弥山王、千の東勝身洲、千の南閼浮洲、千の西牛貨洲、千の北俱盧洲、千の四大天王衆、千の忉利天、千の夜摩天、千の兜率天、千の化樂天、千の他化自在天、千の梵天界にして、これを比丘等よ小千世界と名づく。

何をか中二千世界といふや。謂く、千の小千世界これを中二千世界と名づく。

何をか大千世界といふや。謂く、千の中二千世界これを三千大千世界と名づく。

比丘等よ、是の如き三千大千世界は、東方に於いて際なく辺なく、今壞し已に壞し、今成じ已に成じ、今更に壞し已に壞し、今更に成じ已に成じなり。

比丘等よ。是の如く三千大千世界は南・西・北方に於て際なく辺なく、今壞し已に壞し、今成じ已に成じ、今更に壞し、已に壞し、今更に成じ、已に成じなり。

比丘等よ。南は虚空より車軸の如く降り、河川は流れて周斷なきが如く、比丘等よ、我が天衆は清淨にして人に過ぐるが故に、東方に於て是の如き三千大千世界は際なく辺なく、今更に壞し既に壞し、今成じ已に成じ、また更に今壞し已に壞し、今更に成じ已に成じなり。是くの

如く、南・西・北方に於て、あら初る三千大千世界は壞なく近なく、今壞し已に壞し、今成じ已に成じ、今更に壞し已に壞し、更に今成じ已に成ずるを見るに説き、世尊付内に入り、居室に去り給へり。

爾時、具壽大目犍連は大家の中にあらず。具壽大目犍連は比丘等に云へり、具壽等よ、世尊は説き給へるは善く、是の如く重誑の譬喩を以て説き給へるは希有なり。

こゝに三千世界に二千の大山あり、千の優鉢山王と、千の鉄面山なり。三千世界に二千の大海あり、千の大内海と、千の大外海なり。三千世界に、千の三惡趣あり。千の地獄と、千の傍生と、千の餓鬼なり。三千世界に千の四大洲あり。千の東勝身洲と、千の南勝洲と、千の西牛貨洲と、千の北俱盧洲なり。三千世界に四大の大樹あり。千の閻浮樹と、海解の千の大シヤールマリ (*Jālmali*) と、阿修羅家の千の子トラパータラ (*Citrāpātala*) と、初利天の千のコーザガラ (*Kovidāra*) なり。三千世界に四千の竜族あり、千の卵生の竜族と、千の胎生と、千の濕生と、千の化生なり。三千世界に四千の迦樓羅族あり。千の卵生の迦樓羅族と、千の胎生と、千の濕生と、千の化生なり。三千世界に四千の大天王あり。千の持國と、千の增長と、千の彌目と、千の毘沙門なり。三千世界に五千の衆あり。千の地獄衆と、千の傍生と、千の餓鬼と、千の天と、千の人数なり。三千世界に二千の大衆会処あり。千の天宮法集会処と、千の阿修羅地獄集会処なりと。

經に曰く

Skje gnas ni doni nat mtsho don ||
 de tshe dengo can dnyal tsoyad goham ||
 dengo can gnas agy nat tsoyad de ||
 las lam tshe po de tshe mo ||

(一) 小千世界に愛敬の生處三あり。何をか三といふ。愛敬現前する衆生あり。愛敬現前する者を勤めて制御するものにして、即ち或る人と天等なり。これを天一の愛敬生處となす。愛敬によりて化現する衆生あり。愛敬によりて化現する者を勤めて制御するものにして、即ち化衆天等なり。これを天二の愛敬生處となす。愛敬の化現なる他の衆生あり。他の愛敬によりて化現する者を勤めて制御する者にして、即ち他化自在天等なり。これを天三の愛敬生處となす。

小千世界に安樂の生處三あり。此の身に於て寂靜より生ずる歡喜と、安樂とに滿はされ全く滿はされて、満足し知足する衆生あり。此身に於て寂靜より生ずる歡喜と、安樂とに滿はされ全く滿はされて、満足し知足し、樂觸に住す。この安樂に住する者は壽長く此世に永住す。即ち持衆天等なり。これを天一の安樂生處となす。此身に於て三昧より生ずる歡喜と、安樂とに滿はされ全く滿はされて、満足し知足する衆生あり。此身に於て三昧より生ずる歡喜と、安樂とに滿はされ全く滿はされて、満足し知足し、樂觸に住す。この安樂に住する者は壽長く此世に

永住す。即ち極光淨天（光音天）等なり。これを又ニの安樂生處となす。この身に於て歡喜なしと雖も、安樂に洵はされ全く洵はされて、滿足し知足する衆生あり。この身に於て輕喜なしと雖も、安樂に洵はされ全く洵はされて、滿足し知足し、樂能に住す。この安樂に住する者は壽長く此世に永住す。即ち備淨天なり。これを又三の安樂生處となす。

(二) 小千世界に於て黄金の大山七千あり。即ち千の山王逾健達羅と、千の伊沙駄羅と、千の山王竭地治迦と、千の山王蘇連梨舍那と、千の山王彌渥縛羯摩と、千の山王尼民達羅と、千の山王毘那迦迦なり。

(三) 小千世界に於て戲樂の海七千あり。即ち千の逾健達羅と、千の伊沙駄羅と、千の竭地治迦と、千の蘇連梨舍那と、千の彌渥縛羯摩と、千の尼民達羅と、千の毘那迦迦なり。

(四) 小千世界に於て大地獄八千あり。即ち千の等治と、千の黑繩と、千の聚舍と、千の叫喚と、千の大叫喚と、千の災患と、千の極熱と、千の無雨とあり。

(五) 小千世界に於て衆生の住处九千あり。衆生の色身異り想も亦異なる。即ち人と或る天となり。これを又一の有情居となす。色身異なるも想の同一なる衆生あり、初生の持衆天なり。これを又ニの有情居となす。色身は同一なるも想異なる衆生あり。即ち光淨天なり。これを又三の有情居となす。色身も想も同一なる衆生あり。即ち遍淨天なり。これを又四の有情居となす。色なく全く色あり想なく想と離れたる衆生あり。即ち無想天なり。これを又五の有情居となす。色なく全く色想を超出し、若想を断じ、種々の想を作竟せざるが故に、虚空は無辺なりと思惟し、空無辺處を円満して住する衆生あり。即ち空無辺處に生じたる天なり。これを又六の有情居となす。色なく全く空無辺處より超出し、識は無辺なりと思惟し、識無辺處を円満して住する衆生あり。

即ち誠無迦處に生じたる天なり。これをオ七の有情居となす。色なく全く誠無迦處より超出し、無所有なりと思惟し、無所有處を尸滿して住する衆生あり。即ち無所有處に生じたる天なり。これをオ八の有情居となす。色なく全く無所有處を超出し、非想非々想處を尸滿して住する衆生あり。即ち非想非々想處に生じたる天なり。これをオ九の有情居となす。

(六) 小千世界に於て十不治業道あり。殺生、不與叔、邪淫、妄語、兩舌、惡口、綺語、貪、瞋、邪見なり。大に殺生に親近し、懷念し、多く施作するが故に阿鼻大地獄に生ずべし、されど、これを行ふこと甚だ少なきと、輕きとは炎熱、或は叫喚、或は衆合、或は黑繩、或は等活大地獄に生ずべし。大に不與叔に親近し、懷念し、多く施作すると、邪淫と、妄語と、兩舌と、惡口と、綺語と、貪と、瞋と、邪見に親近し、懷念し、多く施作するは阿鼻大地獄に生ずべし。されど、これを行ふこと少なきと、輕きとは、極熱、或は炎熱、或は大叫喚、或は叫喚、或は衆合、或は黑繩、或は等活大地獄に生ずべし。

立世間第二品、

Loka-prajñapti (Maudgal gyi bu chen po nyed pañic

kyig sten bshag pa) ed. by Shingya Kausarai, 1955.

kyoto. pp. 1~8.

あとがき

子ベツト文施設論研究については、昭和二十六、二十七、二十八年度文部省科学研究費各個研究費を頂いて研究した。昭和二十九、三十年度研究成果刊行費を受けて、近く刊行し得る華になつてゐる。こゝに紙出したところはそのほんの一部である。東洋學論叢所施設論政その他の関連論文を参照されたい。